

## 地域移行推進員活動をとおして思うこと

平成16年度に国がとりまとめた「精神保健医療福祉の改革ビジョン」に基づいて、精神障害者への退院支援が進められています。当センターでは、活動の重要な役割を担っている地域移行推進員さんの現任研修を実施しており、現在14名の方が参加されています。

そのうち4名の方は、平成20年度に当センターが主催した、地域移行推進員等養成講座を受講後、今年度の地域移行推進員さんとして活躍されています。入院患者さんの気持ちに寄り添い、住居確保の支援や生活訓練等、個々のニーズにあったきめ細かなサポートを行う地域移行推進員活動は、対象者はもちろん、関係者からも大きな期待が寄せられています。

### 浜崎 均 様

今年の定年退職を機会に、待望の地域移行推進員をさせて頂いています。例えば、8年前に腰のヘルニアで油汗が出る激痛に歩けなくなり、3度目の手術で某病院に入院していた時に、以前から関心のあった心の病を一度本気で勉強してみようと、病棟の公衆電話から、東京の日本社会事業学校に精神保健福祉士の入学募集要領を送ってもらって受けました。そのきっかけで、学校では精神保健福祉士の国家資格化にご尽力された大野和男先生から、この一番の目的が社会的入院者の為にできた背景のことを強く教えられました。また、社会経験のある人こそ、その実践に期待されているとも指導されました。今やっと、7万人余のうちの一人の支援に関わりかけましたが、習った知識どおりには思う様には進まず、悪戦苦闘の真に心の汗の日々を過ごしています。

### 山田 敬子 様

この秋、リュックを背負い阿波一国歩き遍路をしてきました。旅立つ前は迷わないか、遍路狩りに遭わないか、足腰痛めず最後まで歩けるか不安でした。それは慣れ親しんだ病院を出て、地域に帰ることを目指す方の不安と重なりました。

寂しく険しい山道、風が唸った海辺の道、野犬とにらめっこした野の道を、道標に導かれ温かい接待をうけ、出会ったお遍路さんに多くの事を教えてもらいながらお杖にすがり歩きました。そして旅を終えた時、私は道中決して一人でなかったこと、学ぶ機会をたくさん与えてもらっていたことに気づきました。

新米の私ですが、この旅で得た思いを胸に社会で共によりよく生きていこうとしている人たちに寄り添い、支えとなれるように願い続けよう、それはとても難しいしなかなかできないことだけど、それでも切にそう思いました。

## 溝口 三千子 様

地域移行推進員として退院支援に携わるようになってはや半年が経ちました。昨年度に退院支援に関する講座を受講して、精神疾患に関することや退院支援のあり方等について色々学んだものの、実際に支援活動を行うようになると、最初は戸惑うことも多々ありましたが保健所や医療関係者や相談支援事業者など周りの方々に支えられながら退院支援活動に取り組むことができました。

病院では退院に向けての支援チームがあり、ケースワーカーさんを中心に連携がよくできていて、面接・同行支援等の活動がスムーズに進められました。対象者の意向に沿った退院先がなかなか見つからず、ご本人も不安だったかと思いますが、やっと退院先が決まりほっとしている様子で、嬉しい限りです。退院後は地域住民の一人として関わり、支援したいと思います。

## 山地 シゲ子 様

地域移行推進員とは？統合失調症？高齢者の福祉分野に関わっている私にとって講座内容は初めて耳にする言葉ばかり。勉強不足でしたがすべての事が新鮮。私を夢中にさせる講義でした。病院では精神保健福祉士、薬剤師、作業療法士、臨床心理士などの支援、施設では援護寮、ケアホーム、地域生活支援センターなど目的に合わせた自立支援がある事など多くの支えを感じ取りました。

時代の流れの中で少しずつ変化していますが、まだ偏見があります。研修に参加した多くの方は精神障害の専門職ではなく、地域に根をはった生活をした人たちで推進員としては最も適していると思います。施設を訪問すると職員の温かみのある努力と、障害者の縛られず自由に時間を使える喜び、笑顔。ありがとうと自然に手を出した時の手の温かみに元気をもらい今日も・・・。

